

【授業の到達目標および概要】

授業のテーマ及び到達目標：食行動の心理的アプローチをテーマとする。本授業の到達目標は、①食行動およびそれに関連する行動に関する心理学的な英語の研究論文を精読できるようになること。②食行動に関する心理学的な理論を理解し、説明できるようになることである。

授業の概要：食行動を心理学的なアプローチの水準からとらえた場合、①動物としての「ヒト」の水準、②個人としての「人」、③社会文化的存在としての「人間」の3つが考えられる。また、「食べる」行動を心理学の領域からとらえた場合、①神経科学、②学習・動機づけ、③文化・社会、④健康・臨床、⑤発達の5つがあげられる。

文献講読については、食行動の発達、食行動と社会的な相互作用、食行動に及ぼす認知的な影響、食行動と痩身願望などの中から最新の文献を選ぶ。また、食行動の発達の研究について人との相互作用の視点から解説する。なお、文献講読の時間数は、受講生の人数によって変動する。

【授業計画】

- ① 心理学からみた食行動についての概説
- ② 食行動の発達に関する文献講読
- ③ 食行動と社会的な相互作用に関する文献講読
- ④ 食行動に及ぼす認知的な影響に関する文献講読
- ⑤ 食行動と痩身願望に関する文献講読
- ⑥ 食行動の発達心理学の最近の研究動向について1-食物選択の視点から
- ⑦ 食行動の発達心理学の最近の研究動向について2-母子関係、家族関係の視点から

【授業外学習】

担当部分を精読（逐語訳も含む）した上で、レジメを作成してください。心理学的な用語が出てきますが、有斐閣「心理学辞典」、平凡社「最新 心理学事典」などを参照しながら、丁寧に準備をしてください。詳細については、履修登録後に指示します。自学自習時間は授業時間の倍程度。

【成績評価の方法・基準】

発表内容・議論への参加度（80%）、レポート（20%）によって評価する。履修者のコメントに対してはフィードバックをおこなう。

【教科書】

Splane, E. C. et al. (2020). Psychology of Eating: From biology to culture to policy second edition. Routledge., Meiselman, H. L. et al. (Eds).(2020). Handbook of Eating and Drinking. Springer.や学術論文など、状況に応じて文献を決定する。講読の文献は事前に配布する。その他、参考資料を授業内で随時配布する。

【参考書】

参考文献、資料等については、授業の際に指示する。

【教材】

特になし

【備考】

特になし